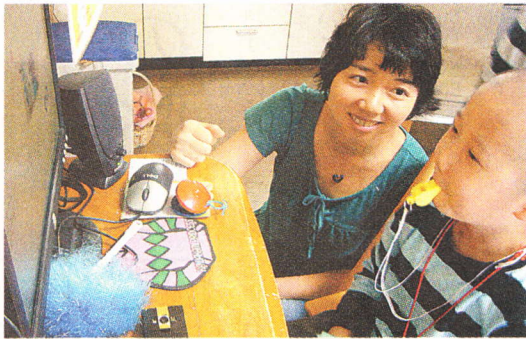


# ネット上の道化師



病気で自宅療養中の子どもに、インターネットを利用してクリニクラウン(臨床道化師が遊びとユーモアを届ける新しい活動を、非営利組織(NPO))「日本クリニクラウン協会」(大阪市港区)が6月から本格的に始めた。同協会は3年前から各地の小児病棟を訪れて、入院中の子どもたちの笑顔をはぐくむパフォーマンスを続けている。ネットの活用によって、退院後や訪問病院がない地域にも遊びを届け、より多くの闘病中の子どもたちの心に寄り添うのを目指している。【遠藤哲也】



パソコンで道化師と遊ぶ横山智明君(右)と母満里子さん―京都市東山区で、遠藤哲也撮影

京都市東山区の小学1年生、横山智明君(6)は自宅居間で、午後4時になるのを心待ちにしていた。毎週火曜日この時間、パソコン画面に赤い鼻を付けた

## 在宅闘病に寄り添い

道化師が現れるのだ。「待ちきれないので、早めにパソコンを立ち上げています」と母満里子さん(39)。デスクトップのパソコンにはウェブカメラが取り付けられ、リアルタイムでスタジオにいる道化師と、映像や音声の双方向のやり取り



クリニクラウンたち―大西達也撮影

ができる。

「トモはどこにいますか?」協会に所属する玉川哲也さん(34)扮する道化師がとほけた表情で画面に現れると、智明君は「逃げる」と歓声を上げながら、居間のソファに隠れた。智明君は笛を吹いたり、カスターネットを奏でたりしながら、20分間、玉川さんと遊んだ。



智明君は悪性リンパ腫の治療

た。満里子さんは「息子の笑い声が聞けるだけでうれしいです」と話す。

同協会は05年6月に設立。現在13人が府立医大をはじめ京都、大阪、東京など全国10病院に定期的に訪問している。他の病院からの派遣要望も強く、クリニクラウンの先進地のオンラインではネットによる在宅支援が広がっていることから、ネット

活用を決めた。

昨年9月から試行し、本格導入を機に同協会を利用者を募集している。対象は、長期入院歴があり、現在も通院中の5〜18歳(目安として)。週1回(20分)、通信費のみ利用者負担。カメラは貸し出し。随時視聴できるコマデイーライブも配信している。問い合わせは日本クリニクラウン協会(06・6575・5502、inf@clinicalowns.jp)。

